

【電子版】

久松真一 仏教講義 全四巻

法藏館



名著『東洋的無』を織りなす諸稿が昭和初期における著者の学問的力を結晶させたものであることは言を俟たないが、その表現は極めて凝集され、時としては急流に漂う読者を浅瀬に乗り上げさせることもなしとしない。それに較べると、本巻に収めた諸論考は悠容たる大河の趣きを示し、初学者を『東洋的無』に導く「入門」もしくは「予備学」という面を備えている。

第一巻・解説(川崎幸夫)より

電子版『久松真一 仏教講義 全四巻』

Product ID	第一巻	KP00071300
	第二巻	KP00071301
	第三巻	KP00071302
	第四巻	KP00071303

本体各巻

同時1アクセス	28,600円
同時3アクセス	57,200円



読者対象

仏教学・哲学・禅などに深い関心を持つ方

推薦の辞

相國寺僧堂 梶谷宗忍

久松真一先生のご講義は、ただにその学理の明解なる、その教示の真実なるに留まらなかつた。そこには常に、質幽玄にして性清冷なる一条の光輝があった。それは、教室の片隅でひそかに拝聴する無学の一修行僧の身をも貫き、その閑葛藤の心底を照らし、その者をしてサツト一段高き別境界、清浄なる本来の場へ救いあげられるを覚えずにはおかぬ、すがすがしくも力強い靈明の光輝であった。今改めて師恩の深きを知る。

幸いにして私は、年に一度先生に縁ある方々と共に先生に献茶し、お相伴して、先生の風貌に親しく接する機会を得ている。しかし、このたび先生のご講義が四巻の書となり、拜読出来るようになるを知って新たな喜びを覚え、ここに四圍の方々が一人でも多く、先生の光輝に触れられんことを切に願う次第である。

久松先生のこと

西谷啓治

西田幾多郎先生の話には、久松先生の名がよく出てきた。禅について話をされることはあつても、禅の立場から話をするということのなかつた西田先生が、「禅は難しい。禅のことは久松がいちばんよくわかつている。」と私にいわれたことがある。当時、西田門下の三狐狸と呼ばれた人々があつて、それが植田壽造、山内得立そして久松真一であつた。私が久松先生の講義を聴いたのは、戦後、間もない頃である。いわば博士過程の院生のような立場で聴講していた。教室には学生にまじつて、衣を着た若い僧が幾人か、熱心に聴いていたのを覚えている。

久松先生の学問は、禅の実践と離れては考えられない性質のものであつた。その講義が他と比して特色あるものだったことも、そうした実践に起因するところがあつたのだろう。私の記憶のなかで、久松先生は常に学者としての知性を保たれつつ、なお、それ以上に禅者であつた。

各巻内容

第1巻

即無の実存

即無の実存	昭和10
無の歴史的研究	" 7~8
宗教的非合理性	" 9
宗教学概論	" 12~13
禅と神秘主義	" 14
仏教的宗教哲学	" 23
宗教哲学	" 37
解説 川崎幸夫	
石井誠士	

第2巻

仏教的世界

仏教学概論	昭和20~21
仏教の体系	" 21
仏教の世界	" 22~23
仏教哲学	" 27
絶対行	" 17~18
根本智	" 18
解説 兵藤正之助	
岡村圭真	
石井誠士	

第3巻

還相の論理

煩惱	昭和23
生産の宗教	" 21~22
絶対現実	" 22~23
仏教的実存	" 24
還相の論理	" 23
仏教哲学	" 36
解説 白井成道	

第4巻

事々無礙

法界縁起論	昭和16~17
正法眼蔵演習	" 17
正法眼蔵・講義メモ	" 19
華嚴金師子章講義	" 20
華嚴金師子章演習	" 20
禅学即今の課題	" 20~21
六祖壇経講義	" 32
解説 常盤義伸	
岡村圭真	
北原東代	

特色

- *『久松真一著作集』(理想社刊)に未収録の昭和期三〇年間に亘る、京都大学を中心とした全講義録。
- *新漢字、新仮名遣い採用。
- *高弟六名による責任編集・解説
- *生活事項と著作を交錯させ、その生涯を重厚につたえる、これまででもっとも詳細な年譜を付す。

久松真一 略年譜

- 一八八九(M22) 岐阜市に生まれる。
- 一九〇八(M41) 19歳。西田幾多郎の名を聞く。
- 第三高等学校に入学。
- 一九一二(T1) 23歳。京都帝国大学文科大學哲学科に入学。
- 一九一三(T2) 24歳。西田教授の「宗教学概論」を受講。
- 一九一五(T4) 26歳。京都帝国大学を卒業。
- 西田教授の誘導により妙心寺僧堂・池上湘山老師会下の臘八大槓心に参じる。
- 一九二九(S4) 40歳。龍谷大学教授に着任。
- 一九三五(S10) 46歳。「即無の実存」を講ず。
- 一九三七(S12) 48歳。京都帝国大学助教授に着任。宗教学、仏教学担当。
- 一九三九(S14) 50歳。「東洋的無」初刊。
- 一九四一(S16) 52歳。京都大学心茶会を創立。
- 一九四四(S19) 55歳。京都大学学道道場創立。
- 一九四五(S20) 56歳。第二次世界大戦終結。西田幾多郎寂。
- 一九四六(S21) 57歳。京都帝国大学教授に就任。
- 一九四七(S22) 58歳。文学博士の学位を受く。「起信の課題」刊行。
- 一九四八(S23) 59歳。「絶対主体道」「茶の精神」刊行。
- 一九四九(S24) 60歳。京都大学停年退官。花園大学教授に就任。
- 一九五七(S32) 68歳。米國ハーバード大学神学部客員教授として招聘さる。「禅と美術」刊行。
- 一九五八(S33) 69歳。米國、欧州へ講演旅行。ハイデッガー等諸氏と対話。
- 一九五九(S34) 70歳。学道道場をFAS協会と改称。
- 一九六八(S43) 79歳。「鈴木大拙全集」の編集委員。「禅の本質と人間の真理」を西谷啓治と共編。
- 一九六九(S44) 80歳。著作集刊行開始。
- 一九七九(S54) 90歳。「アディスト」創刊。
- 一九八〇(S55) 91歳。岐阜市の自宅にて示寂。「覺の宗教」(対話集)刊行。